

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室・施設部
大項目	9 教育研究等環境 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	9.0.1 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。【担当部局：学長室】	
要素	学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化 校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画	
小項目	9.0.2 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。	
要素	校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成【担当部局：学長室】 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保【担当部局：施設部】	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 全キャンパスの整備充実計画を策定する委員会を設置し、統合的かつ継続的な整備を行う。	→各キャンパスの整備・充実計画の進捗状況	B	B			
2. 情報機器の持込利用が可能スペースを増やし、ユビキタスな環境を拡大する。	→情報機器が利用できる建物の増減	C	C			
3. 個人研究室の整備・充実を図り、研究の活性化を支援する。	→建物別の個人研究室平均面積	C	C			
4. 学生・大学院学生・教員間の学習・研究、交流・親睦・発信の機能を持つ学生共同学習スペースを確保する。	→キャンパス別の学生共同学習スペースの設置数、総面積数、設備の充実度(物品販売などサービスの種類)	C	C			
5. 環境側面とその影響を常に把握し、各キャンパスの省資源・省エネを行う。	→キャンパス別の電力消費量、光熱水費、CO ₂ 発生値	C	C			
6. バリアフリーな施設・設備を充実する。	→障がい者用トイレ、点字ブロック、教室内ループなどの設置数	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.1	9.0.1 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。【担当部局：学長室】 (方針設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 方針を定めている ○ 方針は定めていない
	(説明) 2004年9月から2007年3月まで活動したキャンパス総合開発検討委員会において、西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスの整備計画が策定されてきた。その後、聖和大学との合併、第4フィールドの取得等の環境変化を加味しながら、現在西宮上ヶ原キャンパスではキャンパス北西部の開発、神戸三田キャンパスでは学生増に対応するcommons計画が進捗している。
★ 小項目9.0.2	9.0.2 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。 (説明) 2010年11月、第1教授研究館本館が、旧テニスコート跡地へ移転が完了し、2011年2月から供用が開始された。移転がなった第1教授研究館には、主に神・文・社会学部の教員個人研究室(24㎡)と、8室のレンタルラボ(24㎡)、4室の会議室(48㎡)を備えており、研究環境の改善が実現した。 大学院1号館3階の院生共同研究室について、司法研究科の自習席不足を補うため、共同研究室の利用状況を踏まえて再検証した結果、2室を司法研究科自習室に改修した。この結果、長年の懸案であった司法研究科定員数260席の自習席確保が実現した。 2011年4月から、第1教授研究館本館跡地、現社会学部棟の場所に2期に分けて社会学部、学生共同学習スペースが建設される予定で、現在工事が順調に進められている。また、全学の教室不足に対応するため、大学からの要望を受け、北西部開発計画に教室棟の建設が追加された。2014年3月竣工の暁には、キャンパス北西部に学生の一大拠点が完成することとなる。 神戸三田キャンパスのKSC commons計画は順調に計画が検討されている。
その他	

《評価指標データ》

- 校地、校舎、講義室・演習室等の面積
- 備品の管理状況
- 大学院生一人あたりの共同研究室の面積
- 教室の種別数と使用率
- PC設置台数
- 研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
- シャトルバスの利用状況

★ 追加データがあれば追加してください。

◎ 効果が上がっている事項 ※ 目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.1	
★ 小項目9.0.2	第1教授研究館本館の移転により、第1教授研究館本館では24㎡の一人当たり研究個室が実現し、研究環境が大きく改善された。 司法研究科定員の自習席の確保が実現した。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】 伸長させるための方策

注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.1	
★ 小項目9.0.2	今後のキャンパスグランドデザインにおいて、その検討が組織化された際には、第2教授研究館の建て替えについて提言していく。院生共同研究室については、その利用状況を把握し、効果的な自習室の確保を継続して検討する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.1	キャンパス総合開発検討委員会の解散後、今後のキャンパスグランドデザインを検討する組織がなく、各キャンパスの教育研究環境改善についての決定する場がない状況となっている。
★小項目9.0.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.1	法人全体のキャンパスグランドデザインを検討する組織を法人内に持つ必要があるが、すでに高中部共学化に伴う建設計画、西宮上ヶ原キャンパス北西部整備計画は具体的に進捗しており、学院全体の検討組織が必要かどうかの検討が必要である。学院全体の組織の必要がない場合には、それぞれの計画進捗を管理する場の明確化が必要である。
★小項目9.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○限られた予算の中で着実に整備が進められています。特に、学生のための計画は、今後とも重点的に進められることが期待されます。

【学内委員】

○2009年度に設定した目標に関する進捗評価は芳しいものとは言えません。財政的な裏付けが必要でありますが、いずれも重要な目標ですので、少しずつでも達成されることが求められます。

○教育研究等環境の整備について、着実に整備を進めており、評価されます。全キャンパスの整備状況を把握し、検討する組織などが期待されます。

○教育研究等の環境に関する整備方針を定めているとのことですが、その内容の明示が求められます。

○効果が上がっている事項に研究科の内容が含まれています。

○着実に整備が進められていることがうかがえますが、目標の進捗評価はほとんど「C」です。これらの説明があると現状がよく分かります。

○大学に関する各キャンパスにおける整備状況について説明が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・キャンパス・アメニティーの整備に関し学生の声を取り入れる方策が必要ではと思われま。

・小項目9.0.1の現状説明における「コモンズ計画」は学外者には分かりません。

・小項目9.0.2の説明では、全学的な視点から十分な校地、校舎などを整備しているかについて説明してください。

・掲げられた目標などにも言及してください。

・教育研究環境に関する課題は多いように思いますが記述の必要はありませんか。

・整備に関する基本方針を定める体制が明確であることが期待されます。

・本学における情報機器の利用環境および個人研究室の状況改善のための努力が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.1

達成度評価：「学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を、当該大学、学部・研究科の理念・目的を踏まえて定めている」

○小項目9.0.2

基盤評価：「校地および校舎面積が、法令上の基準（大学設置基準等）を満たしており、かつ運動場等の必要な施設・設備を整備していること」

達成度評価：「校地及び施設・設備は、その運用状況等（維持管理の体制含む）において、方針に沿い適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている」

・施設・設備、機器・備品を適正に管理する責任体制、および衛生・安全を確保するためのシステム整備

・バリアフリーに対応するなど、施設・設備の安全性、利便性を向上させるための取り組み

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	1. について、教務部と同じ目標にも拘わらず、進捗評価が違うとのコメントについては、教務部が教室の整備に重点を置いているのに対して学長室では課外活動スペースや共同学習スペースも範疇に含んでいるからであるが、目標の再設定で工夫したい。コモンズ計画とは、学内において学生の共同学習スペースの整備計画を指す。
---	---